◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

愛媛県立図書館 読書会協力図書
新規受入セットのご紹介（一般向け） 平成 26 年版目録掲載

2 歴史の旅・地理の旅

289 僕の死に方 エンディングダイアリー500 日

金子哲雄著 小学館 2012（平成 24）年 205p

41 歳で急逝した流通ジャーナリストの金子哲雄さん。死を宣告されてからも全てを受け入れ、大好きな仕事と闘病生活を続けた。「自分は最後まで、自分に正直に生きてきた。」どこまでも前向きで、いつも全力の著者が最後の力を振り絞って書いた死の記録。

3 社 会 の 問 題

3168 ルポ産ませない社会

小林美希著 河出書房新社 2013（平成 25）年 297p

現代の妊産婦は職場でも社会でも孤立している。非正社員・妊娠解雇・職場流産等現代の妊産婦を取り巻く環境について各現場の事例を示すとともに、「産ませない社会」を変えるために必要なものは何なのかということを問う。

4 自然をみつめる

474 運命の子 トリソミー

松永正訓著 小学館 2013（平成 25）年 220p

染色体が 3 本ある状態を“トリソミー”といい、このような染色体異常をもった赤ちゃんは総じて短命である。この本の主人公、朝陽くんは、13 番目の染色体が 3 本あり、重大な障害を持って生まれてきた。朝陽くん、両親や兄、主治医とのかかわりを描き、障害児を育てることの意味、出生前診断の是非を読者に投げかける。

5 暮らしの科学

556 死の淵を見た男 吉田昌郎と福島第一原発の五〇〇日

門田隆将著 PHP 研究所 2013（平成 25）年 380p

2011 年3月 11 日に起こった東日本大震災では、建物倒壊、津波、火災と並んで、原発事故が人々の心身を脅かした。情報が錯綜する原発事故の只中で、被害を最小限に食い止めるために懸命に働いた人々の姿を追うルポルタージュ。

6 産業関係

637 エンジェルフライト 国際霊柩送還士

佐々涼子著 集英社 2012（平成 24）年 279p

海外で亡くなった日本人、日本で亡くなった外国人は国際霊柩送還士によって送還に必要な手続きや遺体への処置が施された後、家族の元へ送り届けられる。日本初の国際霊柩送還の専門会社で働く人々と遺族を通じて、弔うことの大切さを感じることができる 1 冊。

9 詩歌・随筆・記録・外国文学

9383 希望よあなたに 塔和子詩選集

塔和子著 編集工房ノア 2008（平成 20）年 174p

昭和 4 年、西予市明浜町に生まれた塔和子。ハンセン病の兆候が現れたのは 12 歳の時だった。そして、国の隔離政策により 13 歳で香川県の離島にある「大島青松園」に入所し、ここが終の住処となった。隔てられた島から希望を歌い上げた数々の詩の中から選んで単行本化された 1 冊。塔和子は平成 25 年 8 月 28 日に亡くなった。

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

愛媛県立図書館 読書会協力図書
新規受入セットのご紹介（一般向け） 平成 26 年版目録掲載

9384 人間にとって成熟とは何か （幻冬舎新書）

曽野綾子著 幻冬舎 2013（平成 25）年 239p

人はどうすれば成熟した大人になれるのか。人はどうあるべきなのか。最近の若い世代は他罰的で不幸な人が多いと感じている作家・曽野綾子が、世知辛い世の中で自分の立場を考えながら自分らしく生き抜くコツを提言する。

F 小 説

F554 ノボさん 小説正岡子規と夏目漱石

伊集院静著 講談社 2013（平成 25）年 404p

明治 20 年秋、野球のユニフォームに身を包み一人の若者が銀座の大通りを歩いていく。子規の 21 才からの 15 年間を、伊集院静の筆が生き生きと描く。

****

F555 ジヴェルニーの食卓

原田マハ著 集英社 2013（平成 25）年 233p

ノルマンディの小さな村、ジヴェルニーにアトリエ構え、睡蓮装飾画を手がけるモネ。彼の身の回りを世話するブランシュが彼に出会ったのは、11 才のときだった。日本人に人気の４人の画家をめぐる絵のような小説集。

****

F556 あい 永遠に在り

高田郁著 角川春樹事務所 2013（平成 25）年 352p

幕末に医師としてコレラ防疫などに尽力し、庶民の健康を守った関寛斎とその妻、あいの物語。夫・寛斎に比べて、妻・あいに関する資料は、手織りの木綿布など数少ない。著者は、「婆はわしより偉かった」等の寛斎の言葉に着目し、あいの物語を構築した。（あとがきより）

****

F557 還れぬ家

佐伯一麦著 新潮社 2013（平成 25）年 441p

東日本大震災の２年前に 83 才で呆気なく世を去った認知症の父。かつて家を捨て、家族から離れた光二は、父の介護や葬儀のため再び家族と向き合う。

****

F558 永遠の 0 （講談社文庫）

百田尚樹著 講談社 2009（平成 21）年 589p

終戦直前、沖縄海戦で米空母艦に特攻をかけ、甲板に激突して死んだ日本兵のポケットには、和服の女性と子どもの写真が収められていた。「絶対にあきらめるな。何としても生き残れ！」のことばを部下に遺し、特攻で死んでいった宮部の足跡を、2 人の孫たちがたどる物語。

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆